

プロジェクト課題活動実績（令和7年度）

課 題 名：阿武萩トマト産地の維持・発展

所 属 名：萩農林水産事務所農業部

チーム員：白石一剛、岡崎仁、吉原茂昭、吉村しほ、林孝晴

＜活動事例の要旨＞

生産者の高齢化によるリタイアが著しく、担い手確保が急務となっている夏秋トマト産地（山口あぶトマト）の維持・発展及び集落営農法人連合体である萩アグリ（株）による新規トマト栽培事業の円滑な運営を通じた地域営農の継続を目指し、活動を行った。

山口あぶトマトでは、就農希望者の募集活動として「山口あぶトマト就農ゆめツアー」の開催を支援した。

また、部会や関係機関と連携した夏秋トマト産地再生プロジェクトにより、研修施設やハウス団地の整備など産地の新たな受入体制の構築に向けた取組みを進めた。

さらに、新規就農者の早期経営安定及び部会全体の生産安定に向けた取組を実施した。

施設園芸事業に取り組む萩アグリ（株）に対しては、役員と現場担当者との協議が円滑に進む運営体制づくりを支援するとともに、圃場整備に伴う新たな作付け品目として、ケール栽培を行っている法人とのマッチングを支援した。

1 普及活動の課題・目標

（１）課題の背景

管内の山口あぶトマト部会高俣支部では、生産者の高齢化やリタイアにより生産者数及び栽培面積が減少しており、産地の縮小が懸念されている。

新規就農者の更なる確保を図るため、募集・育成・定着に向けた受入体制の構築や新規ハウス団地の形成、部会と連携した新規就農者の早期経営安定に向けた支援等の方策を検討し、産地の維持発展を目指す。

また、産地の抱える生産課題として、夏期の高温による収量・品質の低下や病害虫の発生があげられ、部会全体の単収向上に向けた取組が求められている。

萩アグリ（株）は、環境制御型施設において令和4年から本格的にトマト・ミニトマトの栽培を開始し制御技術の習得等に取り組んでいる。

運営体制については、農場管理やパート雇用などの労働不足により、日常の管理作業に追われ、目標達成に向けた課題解決が後回しとなっている状況にある。

また、圃場整備後の露地品目の導入が迫っており、経営リスクを最小限に抑えた取組が必要となっている。

（２）目指すべき方向性

山口あぶトマト

- ・就農希望者の受け入れ体制の強化と新規就農者の早期経営確立による産地の担い手の確保
- ・中核生産者の規模拡大及び後継者支援による山口あぶトマト産地の維持・発展

萩アグリ（株）

- ・新規トマト栽培の円滑な運営と雇用者の確保による地域営農の継続

2 普及活動の内容

山口あぶトマト

(1) 担い手の確保・育成

ア 新規就農者の募集活動

地域外からの新規就農希望者を確保するため「山口あぶトマト就農ゆめツアー」の開催を支援した。

萩市、J A、やまぐち振興公社と連携し、参加者確保に向けた募集活動を行った。



【山口あぶトマト就農ゆめツアー(左：産地説明・情報交換等、右：圃場見学・収穫作業体験)】

イ 新規就農者の受入体制の検討

新規就農者の受入体制を再検討するため、関係機関による協議を行った。

現状の課題整理と課題解決にむけて、①居抜き就農からハウス新設就農への転換(高温対策)、②就農地の確保とハウス団地の整備(新設ハウス整備)、③研修施設の整備と指導者の確保(早期技術習得)、④他地区にない魅力のある対策(優先選択される産地)のアクションを提案した。

ウ 新規就農者の早期経営確立

昨年度から部会活動の一つとして実施されている若手研修会の開催を支援した。

これは、技術部会員が若手生産者のほ場を巡回し、助言を行うもので、高俣支部と阿東支部の合同で開催された。

また、栽培研修会等により、草勢管理やトマトキバガの防除などについて、重点的な指導を行った。



【若手研修会】

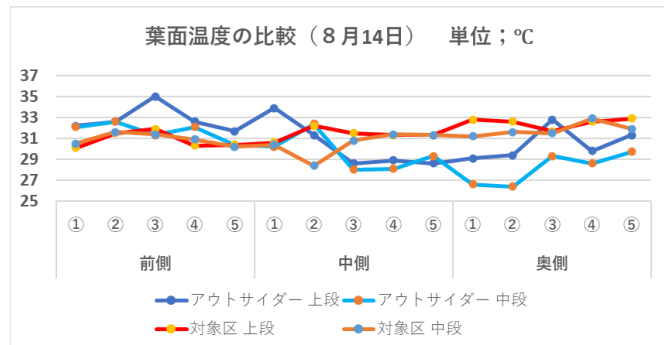
(2) 生産安定及び収益の確保

高俣支部研修会において、予想される気象状況や病虫害発生状況を踏まえた栽培管理指導を行った。

また、高温対策として外気導入装置（アウトサイダー）の現地確認ほを設置した。



【アウトサイダーの設置状況】



【ハウス内の葉温測定】

萩アグリ（株）

(1) 運営体制づくり

トマト運営会議の定期的な開催を支援し、現場担当者からの報告・提案により役員が現状を把握できるように昨年度から継続的な支援を行った。

一方で、目標に対する達成状況や課題については、農場長のハウス運営管理や労働力不足による管理作業の遅れが問題となっているため、共販出荷体制の移行や農業専門求人サイトへの登録など、運営体制の見直しの必要性について役員との協議を行った。

共販体制の移行については理事会で了承されたものの、現在の労働力の状況や販売単価の不安から1年間実施を見送ることとなった。

また、圃場整備に伴う露地圃場の活用については、経営リスクを最低限に抑えた取組として、管内農業法人とのマッチングを支援しケール栽培の導入に向けた現地視察や試験栽培を支援した。



【理事や現場担当者の生育状況の確認】



【ケールの試験栽培】

(2) 生産性の向上

栽培管理担当者の環境制御技術習得に向け、栽培状況の確認と助言を行った。

また、トマトキバガの発生やミニトマトの技術的な課題について、農林総合技術センター研究員との情報交換を支援した。

3 普及活動の成果

山口あぶトマト

(1) 担い手の確保・育成

ア 新規就農者の募集活動

「山口あぶトマト就農ゆめツアー」には7名の参加があったが、直近に萩市での就農が期待される人材の確保には至らなかった。公社主催の就農ゆめツアーは今年度が最終年となるため、今後は地域独自の募集活動を検討する必要がある。

イ 新規就農者の受入体制の検討

関係機関を中心とした「夏秋トマト産地再生プロジェクト」へ4つのアクションを提案し、その方針は令和7年7月に部会から萩市長へ要望書として提出された。

また、新たな受入体制の実現に向け、地域外から年間2名の募集計画を関係機関で合意した。

具体的な調整は継続中であるが、研修施設については、施設整備を行った場合の効果について試算を行った。

また、ハウス団地の候補地については、選果場から近い集落営農法人に対して説明会を実施した。

今後は、さらに具体的な調整を進めていく必要がある。

ウ 新規就農者の早期経営確立

若手研修会が定着し、若手生産者が技術を習得するために、支部を超えて自主的に交流する場面が増えてきた。

新規就農者の平均収量は、昨年の5.2t/10aから約8t/10aに増加した。

一方で、選果場全体の出荷量は、高齢生産者のリタイア等により減少した。

(2) 生産安定及び収益の確保

支部研修会等の部会活動を支援し、病虫害の発生や生育状況に関する情報提供を行った。

猛暑の影響により、出荷数量は前年より減少した。

また、近年の猛暑により高温対策が急務となっていることから、耐暑性の高い品種の検討やハウス内温度の低減対策について、引き続き取り組むことになった。

萩アグリ（株）

(1) 運営体制づくり

「トマト運営会議」における現場担当者(場長)と役員の協議の場が定着した。

また、運営体制見直しの課題に対応するため、農場長の募集や会計担当者の雇用が実施された。

今後は、場長を中心に運営体制の改善が進み、従業員の育成や生産性の向上への取組が強化されることが期待される。

(2) 生産性の向上

環境制御技術や機器の設定方法について従業員の技術習得は進んだが、労働力の不足により事業計画で設定した目標の達成には至らなかった。

今後は栽培管理を充実し、収量や商品化率向上に向けた取組が期待される。

4 今後の普及活動に向けて

山口あぶトマト部会については、引き続き産地の中核となる担い手を確保するため、部会や関係機関と密接に連携し、新たな受入体制の実現に向けた具体的な調整を進める。

また、地域外からの就農希望者の受入体制を整備するとともに、地域独自の募集活動の実施を支援する。

萩アグリ(株)については、経営課題の把握やその改善を円滑に進めるため、農場長を中心とした農場運営の早期確立に向けた支援に取り組む。